

令和2年度 第3四半期 (10月~12月)

# 景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 15.0 ポイント改善、令和元年度第3四半期からは 7.3 ポイント悪化

## ■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲39.2 (前期比+15.0、前年同期比▲7.3)、来期見通し (1月~3月) については▲37.7 (当期比+1.5) となった。

GoTo 事業などの需要喚起政策の効果もあり、マイナス圏ながらも、全産業 DI 値は前期比でプラスに転じた。一方、来期の見通しについては、新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い、経済の鈍化や消費マインドの低下などによる需要の停滞を不安視する声が多く聞かれた。

設備投資については、「実施した」との回答が 31.7 (前期比▲0.2、前年同期比▲5.1)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 29.6 (当期比▲2.1) となった。

## ■製造業

業況 DI 値は▲47.0 (前期比+21.2、前年同期比▲10.7)、来期の見通しについては▲35.9 (当期比+11.1) となった。

全般的に需要停滞による売上減少の声が聞かれる中、食品関連では GoTo 事業による売上確保の動きや、自動車部品製造、電子機器製造業において売上が回復傾向にあるとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「生産設備の不足・老朽化」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

## ■建設業

業況 DI 値は▲23.1 (前期比+1.9、前年同期比▲6.4)、来期の見通しについては▲42.3 (当期比▲19.2) となった。

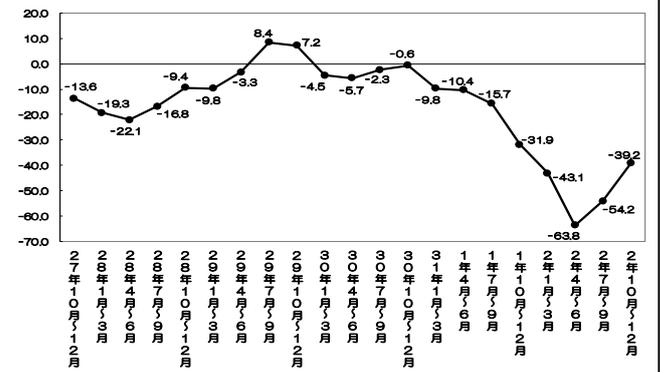
新型コロナウイルスの影響で公共工事・民間工事ともに受注の停滞感が強く、今後の見通しについても、長期化するコロナ禍において民間需要の減少などを不安視する声が多く聞かれた。

経営上の問題点としては、「官公庁需要の停滞」、「民間需要の停滞」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

## 調査概要

- 調査対象
  - (1)対象地区：豊橋市内
  - (2)対象企業数：333社
  - (3)回答企業数：171社 (回答率 51.35%)
- 調査期間  
令和2年10月~12月
- 調査方法  
往復はがきによるアンケート調査
- 回答企業の内訳  
製造業 80・建設業 26・卸売業 20  
小売業 23・運輸業 11・サービス業 11

## 全業種



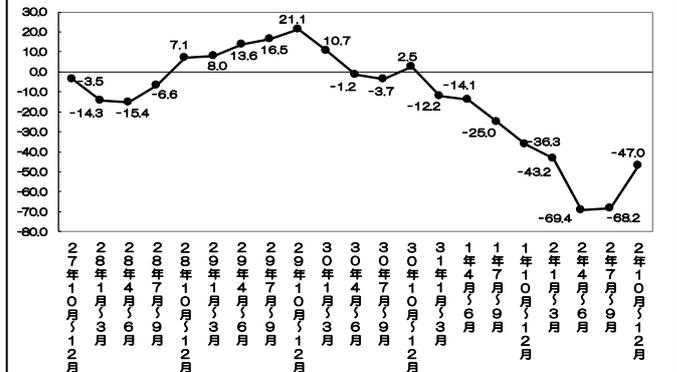
《A》 前年同期 (令和元年10月~12月) と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI 値	
17.0%	26.9%	56.1%	▲39.2	↓

《B》 来期 (令和3年1月~3月) の景況見通し

良い	同様	悪い	DI 値	
9.6%	43.1%	47.3%	▲37.7	↑

## 製造業



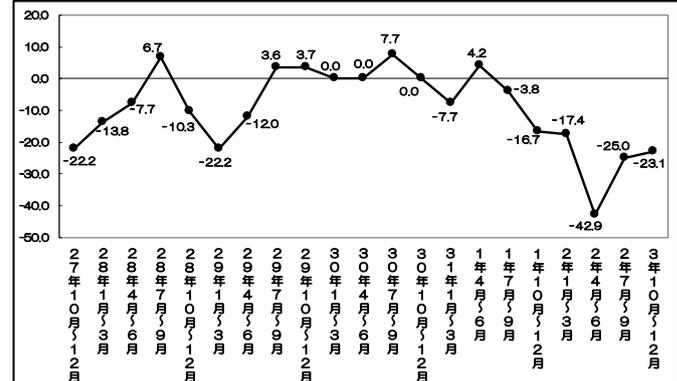
【前年同期比】 令和元年10~12月

自社の業況	▲47.0	↓
-------	-------	---

【来期見通し】 令和3年1~3月

自社の業況	▲35.9	↑
-------	-------	---

## 建設業



【前年同期比】 令和元年10~12月

自社の業況	▲23.1	↓
-------	-------	---

【来期見通し】 令和2年1~3月

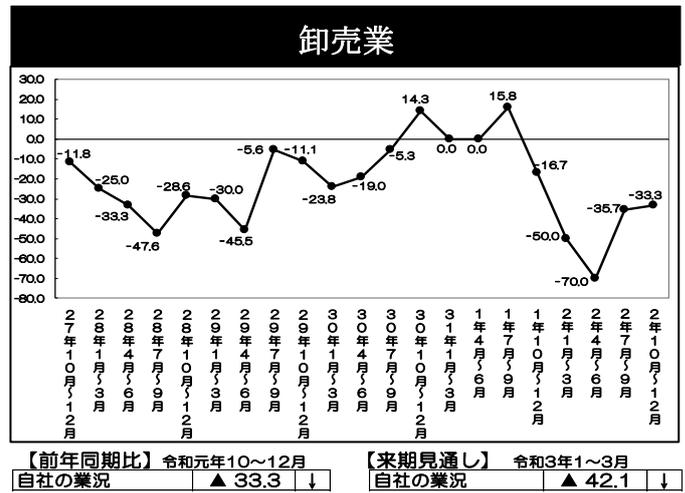
自社の業況	▲42.3	↓
-------	-------	---

## ■卸売業

業況 DI 値は▲33.3（前期比+2.4、前年同期比▲16.6）、来期の見通しについては▲42.1（当期比▲8.8）となった。

リフォーム資材やレジャー用品卸売業では、引き続き巣ごもり関連商品の需要が見られるものの、コロナ禍による消費マインドの低下などで全般的に需要の停滞が感じられるとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「店舗の狭隘きょうあい」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

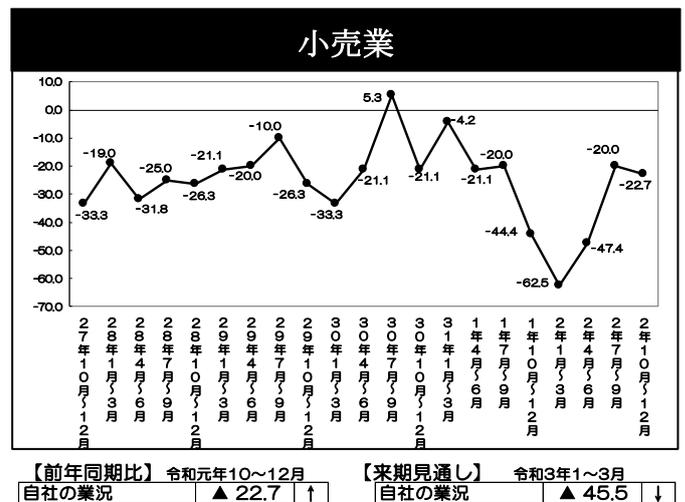


## ■小売業

業況 DI 値は▲22.7（前期比▲2.7、前年同期比+21.7）、来期の見通しについては▲45.5（当期比▲22.8）となった。

全般的にコロナ禍の新しい生活様式による外出自粛や市内での感染再拡大の影響で客足が遠のいているとの声が聞かれる他、靴小売店では需要の停滞によりメーカーや卸で値下げ品が増加しているなどの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」、「同業店の進出」が主に挙げられる。

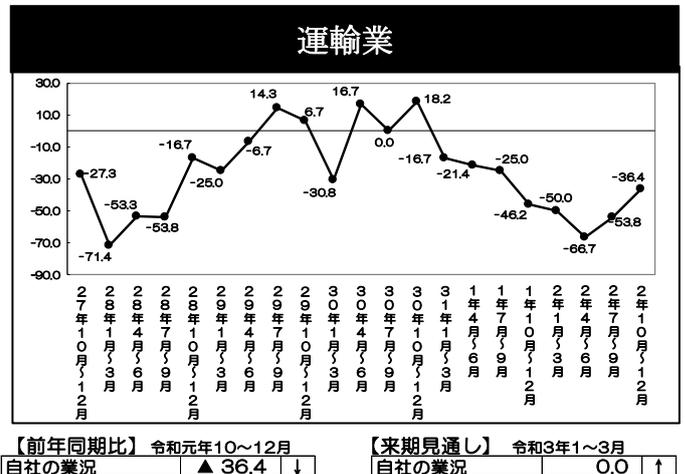


## ■運輸業

業況 DI 値は▲36.4（前期比+17.4、前年同期比+9.8）、来期の見通しについては±0.0（当期比+36.4）となった。

全般的に業況は厳しいものの、工業製品を中心に物量の回復傾向が見られるなど、持ち直しの声も聞かれた。来期についても徐々に回復傾向にある情勢に期待を寄せる声が聞かれた。

経営上の問題点としては「従業員の確保難」、「需要の停滞」、「運送単価の低下・上昇難」が主に挙げられる。



## ■サービス業

業況 DI 値は▲63.6（前期比+36.4、前年同期比▲43.6）、来期の見通しについては▲54.5（当期比+9.1）となった。

飲食業、観光サービス業では、GoTo 事業により、一時的に回復傾向が見られたため DI 値は前期に比べ上昇。しかし年末の宴会需要の激減などにより、全体的に業況は悪化しているとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「消費者ニーズの変化への対応」、「販売単価の低下・上昇難」が主に挙げられる。

